

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立新居浜特別支援学校
学校番号 (54)

評 価 実 施 日		令和6年2月14日 (水)	
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	加藤 博正	新居浜市社会福祉協議会中萩支部長	
	田中 政男	中萩校区まちづくり協議会会長	
	佐々木 龍	新居浜医療福祉生活協同組合理事長	
	三上 祥恵	新居浜市障がい児者相談支援事業所「わかば第2作業所」(所長)	
	大西 悦子	絵手紙サークル「ゆめの会」(代表)	
	伊藤 義男	P T A会長	
	松本 紘枝	P T A副会長	
	谷 万悠子	P T A副会長	
	真鍋 千春	P T A副会長	
	篠原 理恵	P T A副会長	
	角 理恵	P T A副会長	
	伍賀 尚子	P T A副会長	
	木村 絵理子	P T A顧問	
評 価 ・ 提 言 等		提言等に対する改善方策等	
<p>1 学習指導 コロナ感染症関連でICT機器の設置等が進んでいる。本校でもしっかりとICTが活用されている様子が見られる。引き続き児童生徒一人一人に適したICTの活用を進めてほしい。</p> <p>2 進路指導 最近、保護者の方が熱心で、特に高2の保護者の方々が、施設の見学や体験等に來られており、大変活気がある。先生方も保護者のみなさんも、一生懸命されている様子が見える。</p> <p>3 学校安全 大地震など有事の際に、地域の人たちが避難してくることを想定し、体育館の使い方や備蓄品の準備等の計画を立てることが必要。 笛があると声では通りにくいところでも自分があることを知らせることができる。各教室に笛を備えてほしい。</p> <p>4 センターの機能の充実</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教員に対してICTに関する研修会や活用の具体例の紹介を行い、レベルアップを図りたい。また、個別の課題に応じた研修を行ったり、ICT活用に関する相談が気軽にできる環境を整えたりして、教員間のICT活用スキルの差を小さくしていきたい。 ・ 進路指導については、就労支援コーディネーターと連携し、現場実習先・就労先の開拓、卒業生の職場定着支援を行っていく。学校公開セミナーでは、より多くの保護者が参加できるように、事前の案内方法等を工夫したい。 ・ 地震が起こった際に、児童生徒は順次保護者等へ引き渡していくことと想定しつつ、引き渡しができない、地域の方が避難してくるなど、一時的な対応をすべきケースも考えた施設の利用方法について検討しておく。 ・ 現在の備蓄品で具体的に何日分になるのかを確認する。 ・ 各教室に笛を備えることとする。 	

地域全体の特別支援教育のレベルを上げていけるよう、引き続きセンター的機能の充実を図るようお願いしたい。

- ・地域の学校等に出向いての相談や研修の際には、リーフレットの配付や呼び掛けを積極的に行い、ホームページにも分かりやすく告知をする。

5 P T A活動の活性化

文化祭でのフリーマーケット、座談会、施設参観等、今後も継続して保護者が交流をもてる場の設定をお願いしたい。

- ・ 保護者・教職員全員に理事会記録、座談会報告やP T A通信を配付し、P T A活動の状況がより分かるように工夫し、役員・理事を通して、P T A活動の活性化に努める。座談会や施設参観、文化祭フリーマーケットの準備など、参加していただいた保護者の方には、大変好評を得ている。それらの内容についてもっと多くの保護者・教職員に知ってもらうことでP T A活動の活性化につなげたい。

6 相談体制の構築

児童生徒や保護者の悩みなどを相談できるような体制を整えてほしい。また、ここ数年、コロナ感染症拡大のため、いろいろな行事や活動が変わって、先生方には想像できないほどの負担が掛かっていると思う。教職員の悩みに対しても同様である。

- ・ 児童生徒の悩みに対しては、各部主事や養護教諭、生徒指導課を中心に、子どもたちに寄り添って話を聞いたり、ちょっとした表情の変化を察して声を掛けたりするなど、日頃からアンテナを張っておく。
- ・ 保護者に対しては、特別支援教育コーディネーターや進路課が中心となって、日頃の支援や進路に関する事などの相談に応えられるようにする。
- ・ 教職員が抱える悩みや不安に対しては、管理職や部主事、養護教諭と連携を取りながら、できるだけ早く解決できるよう取り組む。